

福島県立医科大学・長崎大学
共同大学院

災害・被ばく医療科学共同専攻（修士課程）



2011年3月の東日本大震災・津波・原子力発電所事故（複合型災害）

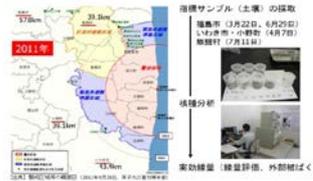
共同大学院設置の必要性



発災直後



緊急放射線被ばく医療体制の確立



事故初期の土壌中放射性物質評価



緊急時モニタリングと除染



地震・津波災害からの救援活動

緊急被ばく医療に関わる人材

環境放射能や被ばく線量測定・評価の人材

医学的知識をもって救援活動に携わる人材

混乱期〜事故収束



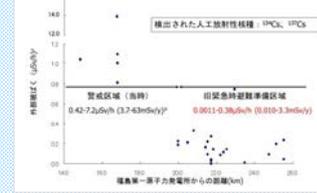
病院の入院患者等の移送・受入



避難所における医療支援・健康管理活動



内部被ばく線量評価



被ばく線量評価を通じた帰還の妥当性評価

避難所等における多数の被災住民の健康管理に携わる人材

環境放射能や被ばく線量測定・評価の人材

復興へ



復興推進拠点を活用した川内村における復興支援



長年にわたる住民の健康管理



4953人			
	人数(A)	割合(%)	
A	1852	42.4%	99.0%
B	2486	56.6%	
C	44	1.0%	
	0	0.0%	

放射線健康リスクコミュニケーションの人材

被災住民を長期的にサポートできる人材

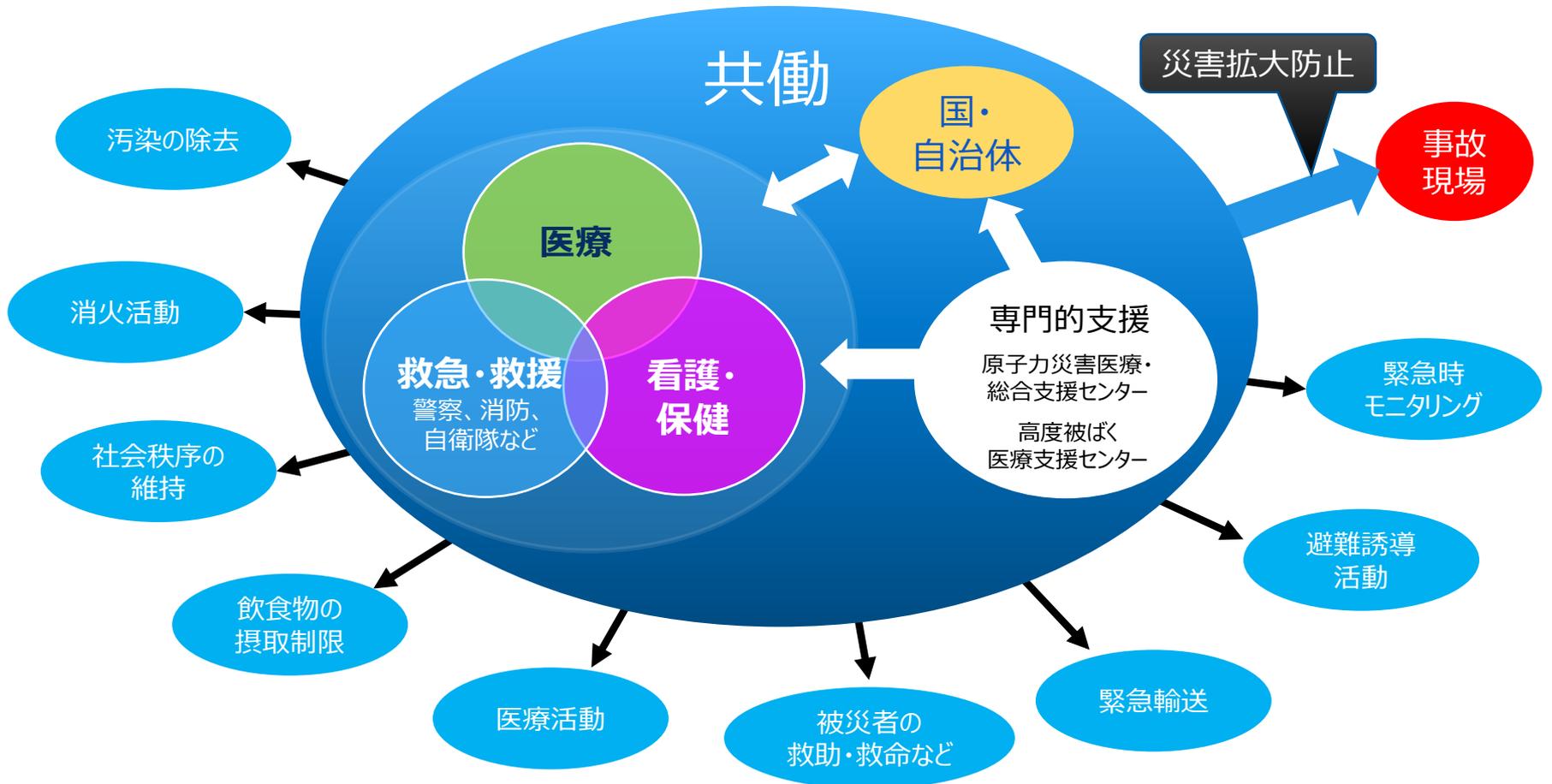
発災期から復興期に至る長年にわたって
 被ばくを含む健康被害に適切に対応できる人材育成の必要性

長崎大学との共同大学院「災害・被ばく医療科学共同専攻」(修士課程)の設立へ

緊急事態応急対応



被ばく事故の場合には、通常の救急医療・救命活動に加え、どういった放射線による被ばくなのか、体内や体外に放射線を発する物質が残存しているのか、被ばく線量などを明確にし、治療、活動内容を理解し**各専門家との共働に基づく適切な判断と対応能力が必要となります**。また活動は除染、放射線管理、防護、被ばくに関する健康影響への説明や心のケアまでさまざまです。





2つのコースは、育成する人材の活動が重複しており、それぞれが単独で専攻組織として構成される領域というより、相互に関連・補完される統合領域になります。

災害・被ばく医療科学共同専攻（修士課程）

医科学コース

（各大学5名程度）

救急医学概論

災害医学特論

国際保健学特論

国内外において、放射線災害を含む災害時の医療対応とクライシスコミュニケーション、災害発生前後における防災計画、避難所や仮設住宅での医療やこころのケア、リスクコミュニケーションなどをはじめとする種々の災害対応を、専門知識を基に行うことができる人材を育成する。

救急救命士、警察、消防、
放射線技師、
保健医療従事行政職員
など

[共通科目]

基礎放射線医科学

災害医学概論

リスクコミュニケーション学

リスクアセスメント概論

被ばく影響学

緊急被ばく医療概論

疫学

保健看護学コース

（各大学5名程度）

看護倫理

放射線ヘルスプロモーション

看護学

放射線看護学

臨床放射線業務に精通するのみならず、放射線災害時の緊急放射線被ばく医療や放射線健康リスクコミュニケーションに対応できる看護師・保健師を育成する。

保健師、
看護師など

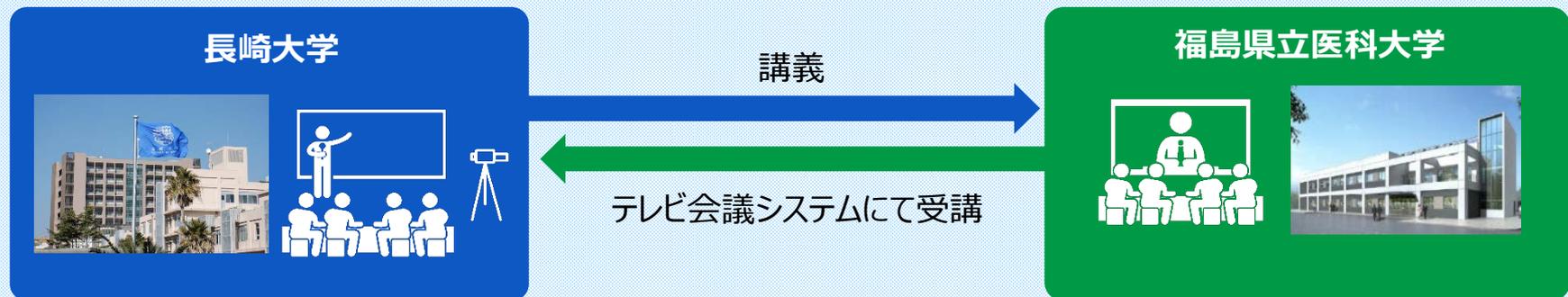
共同講義の運用体制



講義については、学生が本籍を置く大学へ通学し、テレビ会議システムを用いて集合型対面授業を行います。

また、実習参加においてかかる交通費および宿泊費は、学生の実費負担を原則とします。ただし、連続した実習の実施や、大学の宿泊施設、ゲストハウスなどを使用することにより、負担を軽減します。

テレビ会議システムを用いた遠隔講義（長崎大学開設科目講義の場合）



各大学の受講者が実習地へ

- 長崎大川内村実習（福島県川内村）
- 福島医大救急医学実習
- 福島医大放射線災害医療実習



人材育成のバックアップ体制



長崎大学

福島県立医科大学

原爆後障害医療研究所



川内村復興推進拠点（福島県）



ベラルーシ拠点

WHO甲状腺研究協力センター

大学院
医歯薬学総合研究科

大学院
医学研究科

共同大学院
災害・被ばく医療科学共同専攻（修士課程）

医科学
コース

保健看護学
コース

高度救命救急センター ふくしま国際医療科学センター

放射線医学県民健康管理センター
先端臨床研究センター
先端診療部門
医療-産業トランスレーショナル
リサーチセンター
教育・人材部門



長崎県環境保健研究センター

県民生活の質の向上に繋がる
精度の高い試験検査、研究
活動及び情報提供



国際機関のトップレベルの
スタッフによる英語講義と
トレーニングマテリアルの導入

福島県環境創造センター

原子力発電所周辺のモニタリングや安全監視の機能を
担う。国際原子力機関 (IAEA) 緊急時対応能力研修
センターを誘致

緊急被ばく医療分野における
世界トップレベルの教育・研究者

世界保健機関(WHO)

(公衆衛生・環境部門放射線プログラム)
Radiation Emergency Medical Preparedness and Network
(REMPAN) 緊急放射線被ばく医療ネットワーク



放射線健康リスク・コミュニケーションについての
多面的かつ専門的な教育の展開

国際原子力機関 (IAEA)

(原子力科学・応用局 ヒューマンヘルス部)
Science, Technology and Society (STS)
放射線医療科学人材育成の一環としての科学技術社会論プログラム



カリキュラムマップ



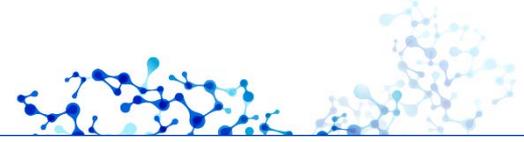
赤：各大学それぞれで開設する科目 青：長崎大学開設科目 緑：福島県立医科大学開設科目 ※（ ）内は単位数

課題研究 (6)	専門実習 (4)	専門科目 (12)			基礎科目 (12)		修了 要件 34単位 以上	
必修科目 (6)	選択必修科目 (4)	選択科目 (4)	選択必修科目 (4)	必修科目 (4)	選択科目 (4)	必修科目 (8)		
<ul style="list-style-type: none"> 課題研究 (6) 	<ul style="list-style-type: none"> 長崎大川内村実習 (2) 長崎大原爆被爆者医療実習 (2) 福島医大救急医学実習 (2) 福島医大放射線災害医療実習 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> シミュレーション医療教育学 (2) 災害地域ヘルスプロモーション学 (2) 救急医学特論 (2) 地域医療学 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> 保健医療社会学特論 (2) 国際プロジェクト管理学 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> 社会医学特論 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> 疫学 (2) リスクアセスメント概論 (2) メンタルヘルス概論 (2) 緊急被ばく医療概論 (2) 被ばく影響学 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎放射線医学 (1) 基礎放射線医科学 (1) 救急医学概論 (1) 災害医学概論 (1) 災害看護学概論 (1) リスクコミュニケーション学 (1) 研究方法特論 (2) 	<p>医学系非履修者は、自由科目として医学概論 (2) を履修する。</p>	<p>医学士コース 保健看護学コース</p>
<ul style="list-style-type: none"> 課題研究 (6) 		<ul style="list-style-type: none"> コンサルテーション特論 (2) 看護管理学特論 (2) 看護教育学 (2) 看護理論 (2) 看護倫理 (2) 国際保健学特論 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> 国際被ばく公衆衛生看護学 (2) 放射線ヘルスプロモーション看護学 (2) 臨床放射線看護学 (2) 災害公衆衛生看護学 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> 放射線看護学 (2) 				

2 年次

1 年次

共同大学院の修了生が習得できる具体的な能力



- 医療機関、搬送機関、地方行政機関、関連する省庁において、複合型災害時の災害サイクルに応じて、超急性期・急性期対応では調整能力とクライシスコミュニケーション能力を発揮して健康被害に対して適切に対応し、平時や復興期においては、住民の防災対策・健康影響、リスクコミュニケーション等に関する事業に対応できる。
- 国内外の教育機関・自治体・公的機関において、後進の育成を行うことができる。
- 博士課程を経て、関連する国際機関において災害時のクライシスコミュニケーションやリスクコミュニケーションに関連するプロジェクトを主導できる。

